

SSKA 頸 損

KEISON No.93

も く じ

特集記事

- ①リハ工学を中心とした最近の福祉機器 1
最先端 福祉機器の紹介「コンパクトアーム付き電動車いす」 2
「リハ工学カンファレンス in名古屋」～名古屋の夜に散った手羽先～ 4
リハビリテーション工学カンファレンスに参加して 7
「国際福祉機器展 HCR 2007」報告 8
②DP世界会議・韓国大会とそれぞれの韓国体験
第7回DP世界会議 韓国大会への参加報告 DP日本会議議長 三澤 了 9
「それぞれの韓国体験」 赤尾広明・出羽節子・西村忠雄 10
DP韓国大会に参加して 全国頸損連絡会会長 三戸呂克美 15
資料・DPI(障害者インターナショナル) ソウル宣言 17
特別寄稿 「海外旅行を100倍楽しむために」全国頸損連絡会相談役 今西正義 18

- 連載 会員さん紹介 大阪・吉田憲司さんの巻 22
連載 支部紹介 「静岡頸髄損傷者連絡会」 23
連載 お役立ち 便利なパソコンソフトの紹介 24

- 「1031全国大フォーラム」報告 25
「07秋の代表者会議」報告 26
「東京の交通機関の現状について」 交通行動東京実行委員長 伊藤雅文 28
「誰もが使える交通機関を求める全国行動」報告 29
「広島頸損ネットワーク・きりんの会」訪問 30
「第2回・四国頸損の集い」報告 31
「頸損でも楽しめるスポーツ」紹介「第1回FFPXワールドカップ2007」報告 32 33
「盲腸ポート」実体験レポート 34
全国頸損連絡会本部・支部連絡先 35
「2008年度全国総会大阪大会」参加呼びかけ ☆大阪ええとこ一度はおいで！？ 37

特集記事

リハ工学を中心とした 最近の福祉機器

最先端 福祉機器の紹介 「コンパクトアーム付き電動車いす」

東京都頸髄損傷者連絡会 魅澤 孝

「リハ工学カンファレンス in 名古屋」～名古屋の夜に散った手羽先～

兵庫頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

「リハリハビリテーション工学カンファレンス」に参加して

第 34 回 国際福祉機器展 H.C.R.2007 開催される

東京頸髄損傷者連絡会 魅澤 孝

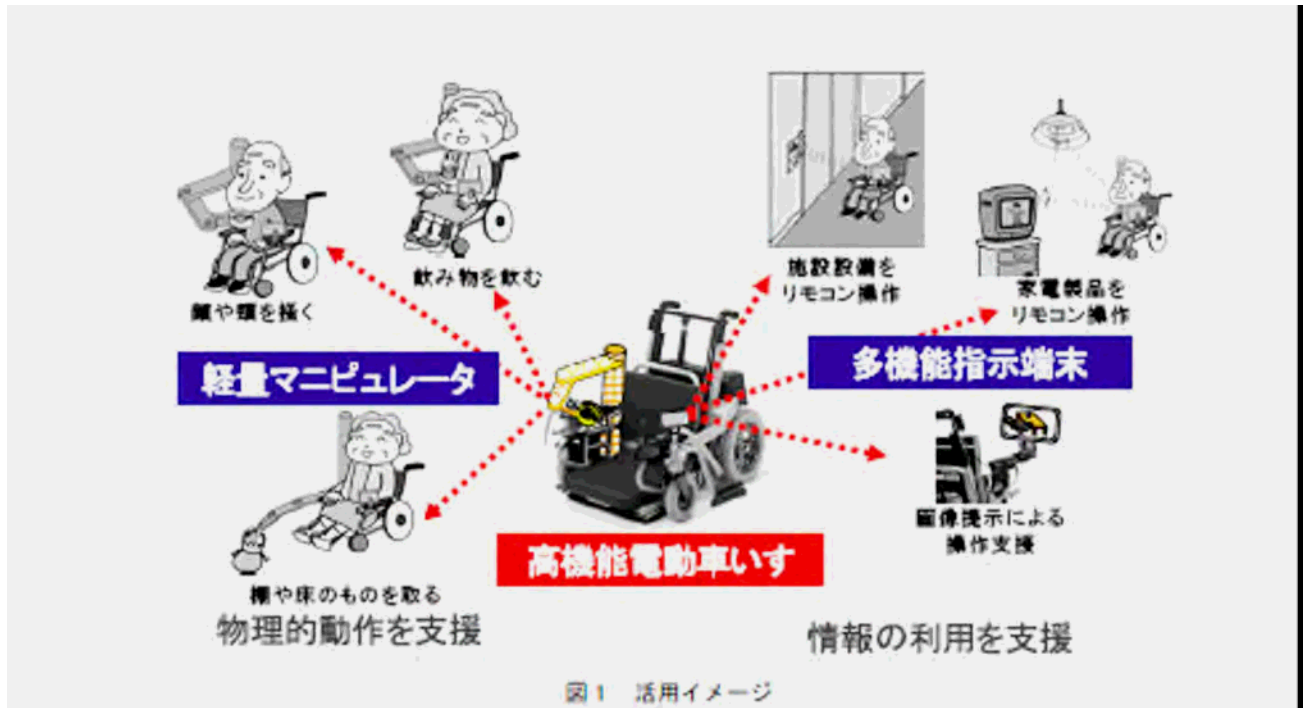


最先端 福祉機器の紹介① コンパクトアーム付き電動車いす

麿澤 孝

2007年8月23日から3日間に渡り名古屋国際会議場で開催された「リハ工学カンファレンス」に、開発中

の「コンパクトアーム付き電動車いす EMC-230+U」を出展されていました。



現在、道路交通法の制限（電動車いすの大きさ？）でアームの支柱をこれ以上高くすることができない、アームの関節を増やすと価格や大きさに影響がある、アームを顔(目)のそばに持ってくる時の安全性確保などの理由から、アームの可動範囲を制限しているそうです。

なお、ハンドの握力は調整可能であり、紙パックの飲み物でも、パックを潰すことなく掴んで持ち上げることが可能です。

「ビールをジョッキで飲みたい」というユーザーからのご要望なども踏まえ、電動車いすの機能・行動範囲を損なうことなく、かつ法令を遵守することが重要と考えているそうです。

見学者（操作してみた方）には、「落としたタオルを拾い手元まで運ぶ」という基本作業に加え、収納時のコンパクトさ **電動車いす用の操作スティックでアーム操作を共用できる**という点を何度もデモンストレーションをしていました。



電動車いすと統合した操作インターフェース コンパクトアーム付き電動車いすに乗り、多数のボタンを使うのではなく、普段運転に使っているジョイスティックの傾斜の強弱によって機能を使い分ける工夫は、とても良いと思います。

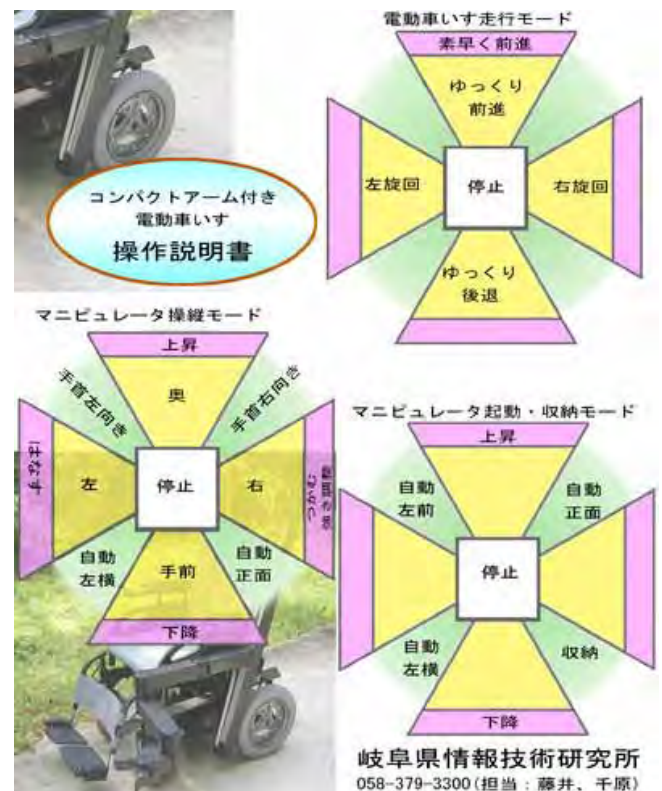
押しボタンやタッチパネルなどのように、入力装置を見ながら操作する必要がないので、慣れれば非常に快適な入力方式です。一方、「操作方法が難しすぎないか」という指摘もあり、現状ではある程度の器

用さが求められる入力方法であるため、ユーザーに合わせ改良していく必要があるようです。

そのほか、最も気になるのは「価格」についてです。開発者は「最終的には市場が決めるものですが、開発サイドとしては、基本的には電動車いすのオプションとして販売するため、車両本体価格を下回る設定にする必要がある。その他、いただいたご意見やご提案を踏まえ、更なる改良を加えていく予定です。」とのこと。

頸髄損傷者にとって「物をつかむ」「床から拾う」は日常生活の大切な動作のひとつです。ぜひこのコンパクトアームが実用化され頸髄損傷者の生活に役立つことを願います。

岐阜県情報技術所ホームページ(動画も見られます)
<http://www.com.rd.pref.gifu.jp/~imit/research.html>



リハ工学カンファレンスin名古屋 ～名古屋の夜に散った手羽先～

兵庫頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

リハビリテーション工学カンファレンス（以下、リハ工）に参加するようになって11年が経ちます。大阪に始まり、長崎、岐阜、金沢、徳島、岡山、横浜、神戸、思い出せばいろんなところへ出向きました。そして今回は名古屋での開催。昨年、神戸で開催したリハ工では実行委員として参加したこともあり、リハ工に対する障害当事者の参加および発言の必要性を強く感じたことから、今回は演題発表者として参加してきました。リハ工についての詳しい内容は魅澤さんの章をお読みください。私の方からは名古屋での楽しいエピソードを交えながらリハ工の報告をしたいと思います。



魅澤さん(&介助者)と会場前にて

初日から大ピンチ！

名古屋は3月に代表者会議、6月に全国頸髄損傷者連絡会総会と、このリハ工を含めて今年で3回目となります。名古屋は大阪と並ぶ「ウマイもん」がたくさんある街ですから、行く前から「手羽先を食おうか、ひつまぶしを食おうか、いや、それとも味噌カツかな」とウキウキしてしまいます。3回目ともなればもう立派な名古屋通（ほとんど知ってないのですが…）、名

古屋の夜を満喫するぞ！と気合い十分に兵庫を出発したのが初日のお昼前。発表者である私の発表は初日の16:00からであったので、十分に余裕を持って車で中国自動車道から名神高速道路で一路名古屋へ。ところがいきなりハプニングがタコ焼きボーイズ三男坊に襲いかかってきたのです。名神高速道路で京都を過ぎるまでは順調だったのですが、滋賀の栗東IC手前からチョー大渋滞に巻き込まれてしまい「なんじゃこら？」と高速道路情報掲示板を見ると「栗東一竜王IC間で車両火災」との情報が。これはマズイと栗東ICで一般道に下り、竜王ICで再び高速に乗る計画に急遽変更。ところが他の車も同じ方法を選択したため一般道も大渋滞。やっこの思いで竜王ICにたどり着いた時にはカーナビが示す到着予定時刻は16:20とほぼ絶望的…。しかしそこは私の優秀な介助者。安全かつ的確な運転技術で、会場である名古屋国際会議場に運び込んでくれたのは15:55のことでした。

患つくヒマもなく

さて、リハ工の魅力といえば「障害当事者と様々な分野の関係者が情報と意見の交換および相互交流をおこなう」ことだと言えるでしょう。我々の生活を豊かに実現するための工学的支援技術を発展・普及させる関係者たちと活発に同等に意見を交換できるのですから、普段使っている福祉機器や用具についての改善や製品開発における要望などをアピールする絶好のチャンスです。今回、私も「ECSの性能が重度四肢麻痺者のQOLに及ぼす影響—長期の使用経験に基づく考察と展望—」として発表をおこない、環境制御装置のユーザーとして提言しました。

…なんて落ち着いて語っている場合ではなかった。とにかく会場に到着したのが私が発表するセッションの5分前ですから、受付をするよりも発表会場に飛び込むのがやつのこと。といっても、4人いる発表者の中で一番最後だったこともあり「一息入れることができるな」と安心したのも束の間、座長の口からとんでもない一言が…「宮野さんの発表を一番にしましょう」どんだけえ〜！って感じです。そこからのことはよく覚えていないというか、なんとか制限時間通りに終わり、そこそこ質問も出たような感じですが、終わった途端にドッと疲れが出たことと間に合って良かったという安心感だけが印象に残っています。発表を聞いてくださった方からは「わかりやすく良かったよ」と声をかけてもらいましたが、引きつった笑顔を返すのが精一杯でした。そんなこんなで疲れを引きずったままホテルへ帰り、次の日は魅澤さんの発表が朝イチであるため、手羽先を食べながら熱くこれからのリハ工を語る“魅澤さんと男の友情を深める計画”は次の日に持ち越しとなったのである。手羽先に思いを馳せつつ、カップスープをすすって一日目が終了。

リハ工は社交の場

魅澤さんの発表を聞くために早起きをして会場に向かう。ちなみに宿泊ホテルは「名鉄イン名古屋金山」リーズナブルで使いやすいホテルでした。ホテルから名古屋国際会議場までは車で7分ほど。結構近いところだったのだと2日目にして気づく。名古屋国際会議場に着いてさらにビックリ、メチャクチャ広いところだったんですね！いやー、昨日はホント気がつかなかった。発表会場はどこかと探している内にいつの間にか迷子になりました。(ちょっと大げさ)魅澤さんの発表タイトルは「在宅頸髄損傷者の簡単な福祉機器や自助具等の調整修理と技術ボランティアの必要性」とタイトルの通りわかりやすいものであり、障害当事者ならではの発表でした。さすがリハ工スペシャリストです。

ありがたいことに数多くリハ工に顔を出しているだけあって、最近では研究者や技術者、大学関係者や企業関係者に知り合いが多くなってきました。魅澤さんの発表を聞き終えて会場内をブラブラ散策していても、あちらこちらで声をかけられます。ここぞとばかりに自分の使用している機器や用具の使用状況や「もっとこんな感じの仕様であればいいのになあ」と要望を出します。製品機器の開発には障害当事者の意見は絶対に欠かすことができませんが、近年、機器ばかりが進化を遂げて、それを使用する障害者に対する支援が追いついていないのが現状です。使える者にとっては便利な機器や用具も、使えない者にとっては無用の長物になりますし、モノや機能がいくら増えても、使用者にとって「使える」「使いやすい」環境が整っていなければ意味がありません。リハ工のような、普段敷居の高さを感じる提供側と利用者の意見交換が“ざっくばらん”におこなえる場というのは我々にとっても非常に有益な場だと思います。しかもリハ工の醍醐味は、夜にご当地の美味しいモノを食べながら関係者と語り合うということにもあります。元々リハ工カンファレンスはこういう目的から開催されるようになったようですね。



熱心に？発表を聞く宮野

最新の機器

リハ工には最新機器のPRに訪れるメーカーも多数ある。詳しいことは特集で紹介してある

のでそちらを見てもらいたい。私が紹介したいのは、これら最新機器のモニターとして自分を売り込むチャンスであるのもリハ工の魅力の一つだということ。これが結構話が発展するんですよ。私がモニターで使用している環境制御装置なんかも「いいなー、使いたいなー」とことあるごとに言っていたら実現したのですから。今回もロボットアーム関連で2機の製品が出展されていました。もちろんブース前で「いいなー、使いたいなー」を連発してきましたよ(笑)



ロボットアームが鍵を拾う(欲しいなー)

Wandering K-son In The Nagoya Night (名古屋の夜にさまよう頸損)

さあ、名古屋最後の夜は、昨日断念した“ 魅澤さんと男の友情を深める計画 ” を実行に移すことで美しく飾りたい。そんな思いを秘めて、リハ工終了後に JR 金山駅にて魅澤さんと待ち合わせた。名古屋に来て石を投げたら必ず当たるという「世界の山ちゃん」(ホンマかいな)にて念願の手羽先祭りをおこなうためである。

駅周辺であれば「世界の山ちゃん」にもすぐ見つかるだろうと探したところ、やはり簡単に見つけることができた。しかも3店舗が近くして営業していたのである。その中の一つに入ろうと店員に尋ねたところ、満員で入れないとのこと。「仕方がないなー」とすぐ近くの店舗に向かったところ、なんとここも満員で入ることができませんでした。すぐに手羽先にありつけると我慢していましたが、やはり夜とはいえどもかなりの暑さのため、少しずつ気持ちに余裕が

なくなり始める。動き回るのはマズイと、店員に他の店の客入り状況を電話で尋ねてもらうことにした。しばらく待っていると店員が申し訳なさそうに「他の店もいっぱい…」と出てきた。「仕方がないね」と笑顔で答える大人な魅澤さん、「山ちゃんだけが手羽先にあらず。風来坊もあるよ」とポジティブ宮野。しかしその後すぐに二人の顔から笑みは消える。探せども探せども手羽先店が見つからない。妥協して居酒屋を探してみるものの大型電動車いすが2台も入れる広い店が無い。あったとしても段差に阻まれてなす術ナシ…。う〜ん腹が減った…

結局 JR 金山駅周辺をかなりの範囲でさまよっていましたが良い店が見つからず、最後に辿り着いたのが駅前にある「焼酎バー」なるオープンカフェちっくなお店でした。(って書くとまるで楽しくなかったように思われるでしょうが、実際はメチャクチャ楽しかったですよ。要は酒があればどこでも楽しめるんです！)

かくして男たち(with 美女1名)の手羽先ガッツリ食いまくるという野望は、名古屋の熱い熱い夜に散っていったのであった。



オレたちの夜は熱かった(焼酎バーにて)

長々と書いてきましたが、言いたいことはただ一つ。リハ工カンファレンス in 名古屋は最高でした！ということ。そして、こんな楽しいネタがいっぱいのリハ工学カンファレンスを是非我々と一緒に盛り上げてみませんか？みなさんの参加をお待ちしております。

リハビリテーション工学カンファレンスに参加して

東京頸損連絡会 麿澤 孝

「第22回 リハ工学カンファレンス」

開催日：2007年8月23日(木)～25日(土)

会場：名古屋国際会議場 名古屋市中熱田区熱田西町1番1号

私たちは安心して暮らせる環境と人に囲まれ、道具・機器を利用して生活しています。道具・機器そのものや利用する方法を含めてテクノロジーと呼ぶならば、自分に合ったテクノロジーを獲得し有効に活用できることは、私たちの生活を支えるものとして非常に重要な意味を持ちます。つまりそれは生命を維持し、なにげない日常を過ごすことはもちろん、自分が自分らしく生きるためのさまざまな社会活動や生活を創っていくことになるのです。まさにリハビリテーション工学は、人の生活や想いを具体的なカタチにする総合的な科学と言えます。

今回のカンファレンスのテーマは、「人と出会う。技術と出会う。アツく語ろう、みんなの生活(くらし)」です。“アツく”の部分には、皆さんの好きな漢字を入れてください。“熱く”語る、人の心に“厚く”触れる、一つのことに“篤く”こだわる等々... (名古屋の夏は暑いですよ)そして、障がいや立場・分野を超えてお互いを理解し、共有感が実感できればと思います。また、ハイテク、ローテクといった視点ではなく、人の生活や顔が見える技術、夢のあるテクノロジーに出会ってください。リハ工学を支えるすばらしい仲間に出会ってください。

リハ工学カンファレンス、ホームページより

私は10年以上前からリハビリテーション工学カンファレンスには参加しています。過去、札幌・仙台・東京・金沢・神戸・佐賀など毎年夏の時期に開催されて、私自身、演題発表も6回目になりました。今年はJR名古屋駅からのアクセスも良く、会場近くのホテルに宿泊できて良かったのですが、とにかく「暑かった・・・」です。

会場はリハビリテーション関係者・エンジニア・福祉機器事業者・福祉系大学専門学校関係者、そして車いすユーザーの参加がありました。

公開セミナー／シンポジウム「地域リハビリテーションとリハ工学」をはじめ、交流広場やワークショップ、福祉機器の展示など一般の方々に参加できるプログラムが組まれており、多くの皆さんが会場に来ておりました。そして懇親会では障害を持つ方達の楽器演奏もあり、

車いすユーザーや障害を持った方が多かったという印象のリハ工学カンファレンスでした。

私自身、演題発表に加え今年はリハ工学協会理事になって初めてのリハ工学カンファレンスで例年とは違った「緊張」の参加でした。演題発表では「在宅頸髄損傷者の簡単な福祉機器や自助具等の調整修理と技術ボランティアの必要性」を発表しましたが、ペース配分を誤り最後まで上手く話せませんでした。(何回やっても人前で話すのは上手くなりません)

ここ数年、カンファレンスに障害をもった福祉機器ユーザーが演題発表したり、会場で顔を合わせる機会も増えてきました。しかし、まだまだ多いとは言えません。福祉機器ユーザーが積極的にエンジニアや開発者、事業者の中でユーザー側の意見を主張する絶好の場でもあります。ぜひ、「頸損」をお読みの頸髄損傷者

の皆さんにリハ工学に興味を持っていただき、
ユーザーの生の声をリハ工学カンファレンスで

訴えていただければと思います。



演題発表の様子



シンポジウムの様子

第23回リハ工学カンファレンスは、2008年8月27日(水)～29日(金) 新潟市内、「朱鷺メッセ:新潟コンベンションセンター」で開催します。

多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

日本リハビリテーション工学協会

<http://www.resja.gr.jp/>

第34回 国際福祉機器展 H.C.R.2007 開催される

※期日:平成19年10月3日(水)～10月5日(金) 会場:東京ビッグサイト(有明)

来場者数:3日間通しての来場者は約128,000人

ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した福祉車両まで世界の福祉機器を一堂に集めた国際展示会。保健医療・福祉・介護の各分野の制度改革や事業活動を紹介する国際シンポジウム、セミナーなど

平成20年の第35回国際福祉機器展 H.C.R. 2008は、平成20年9月24日(水)～26日(金)にて、東京ビッグサイトにて開催いたします。



特集記事

DPI世界会議 韓国大会とそれぞれの韓国体験

第7回 DPI 世界会議韓国大会への参加報告 —私たちの権利、私たちの条約、そしてすべての人のために—

DPI日本会議 議長 三澤 了

去る9月5日から8日までの4日間に渡り、韓国の京畿道高陽市(キョンギ道コヤン市)の KINTEX を舞台に「第7回 DPI 世界会議韓国大会(以下、韓国大会)」が開催された。今回の大会は、昨年12月13日に国連において「障害者権利条約」が制定されて以降、初めての大規模な障害者関連の国際的な会議である。大会のプログラムもそれを反映して、権利条約関連の報告や提起が数多く設けられていた。会場には、「私たちの権利、私たちの条約、そしてすべてのひとのために」という大会スローガンが掲げられ、世界規模での権利条約の実効化に向けて進んでいく、世界の障害者の意志を明らかにしていた。

今回の第7回 DPI 世界会議は、2002年に北海道札幌市で行われた第6回の後を次ぐものである。当初、第7回の大会は、南アフリカで行う予定にしていた。資金調達がはかばかしくいかない南アフリカに代わって韓国 DPI が急遽開催をひきうけて実施されたのが、今回の大会である。2年間の準備期間で多くのことを成し遂げた、韓国 DPI をはじめとする関係者の皆さんの努力に改めて敬意を表するものである。今回の大会には、71の国と地域から、約2700人の参加者を集めて開催されたが、そのうち約350人が日本からの参加者であった。

最初のプログラムである開会式では、ビーナス・イラガン世界議長(フィリピン)に続いて挨拶にたった、イ・イプソク韓国 DPI 会長から、権利条約の成立を受けてすべての人々の人権の確立に向けた歴史を創りあげていく DPI の新たな運動を提起する挨拶が行われた。開会セレモニーでは、韓国国務総理(首相)のあいさつ、パン・ギムン国連事務総長のビデオメッセージ等が行われ、引き続きルイス・ガレゴス元特別委



員会議長(エクアドル)の基調講演が行われた。ガレゴス元議長は、権利条約を審議する特別委員会の初代の議長で、条約を制定するという明確な意志の元に委員会に臨んだ人であり、NGO の参画に道筋をつけた人である。ガレゴス元議長はその講演の中で、「障害者権利条約」が、「Nothing about us, without us! (私たちのことを、私たち抜きに決めるな)」のスローガンのもと、DPIをはじめとするNGOが条約策定に重要な役割を果たしたこと、さらに多くの国の政府代表団に障害当事者が参画していたことを紹介し、この条約策定過程における障害当事者の活躍を評価した。

2日目以降は、午前10時の開始後1時間は、全体会での権利条約に関する講演が行われ、その後6つの会場に別れての分科会が行われた。1分科会2時間で、全体で34の分科会が行われた。(急遽とりやめとなった分科会もある。)。分科会は条約の条文にそってテーマ設定がなされており、「自立生活」、「女性障害者」、「雇用」、「教育」、「移動」、「国内履行とモニタリング」等々の関心の高いテーマの分科会には、会場に入りきれない人もでるほどの盛況であっ

た。これらの分科会には日本からは、20人余の人がパネラーとして出席し、それぞれのテーマにそった日本の状況や運動の取り組みを報告した。

全体会ならびにすべての分科会は原則として、DPI の公用語である英語、フランス語、スペイン語の他に、韓国語と日本語の通訳がつけられた。日本語の通訳に関しては、日本からの参加者の便宜を図るという主旨で、組織委員会と DPI 日本会議が協力してすべての分科会に付けることにしたものである。

会場となった KINTEX は、様々な見本市等が開かれる巨大なイベント施設であり、大会はその2つのスペースを使って行われた。1つは全体会とパーティー・食事等に使用され、もう一つのスペースには6つの分科会会場と参加団体の活動紹介ブースが設けられていた。DPI 日本会議もそのブースの一つをかり、活動紹介のパネル展示を行ったが、外国の参加者以上に日本からの参加者に対する情報提供や各種相談対応で、担当したDPI日本会議スタッフは大忙しの状態であった。会場のあまりの広さに会場を動き回りに困難な人も見受けられたが、組織委員会が貸し出した電動車いすやハンドル型電動車いすが人気の的になり、初めて電動車いすに乗った人が快適そうに広い会場を乗り回していた。

4日間の大会期間中には、全体会や分科会等の公

式プログラム以外に多くのサイド・イベントが組まれていた。中でも、ILグローバル・サミットと女性グローバル・サミットは多くの参加者を集め、活発な意見交換や交流が図られたが、他にも日本のピープルファーストと韓国の知的障害者の交流のセッションや、日本における在日コリアンの無年金障害者問題のセッション等も興味深い論議が交わされていた。こうしたサイドイベントの一つとして設けられた、韓国の「障害者差別禁止法制定推進連帯」と「日本障害フォーラム(JDF)」の共催で行われた日韓の障害者差別禁止法をめぐるセッションでは、今年の3月に、既に差別禁止法を制定させた韓国の運動経過や、日本での取り組み状況等がそれぞれに報告され、実効性のある差別禁止法の制定・施行に向けて互いに力を尽くしていくことが確認された。

大会は、大きなトラブルや事故もなく、今後4年間の世界会議執行部を選出して無事に閉幕した。今回の大会のトータルテーマである「私たちの権利、私たちの条約、そしてすべての人のために」を、参加者すべてが胸に納め、新たに制定された「権利条約」を手段として、すべての障害者の人としての権利の確立にむけて力を合わせていきたいと考える。

「はじめてのコリア」

大阪頸髄損傷者連絡会 赤尾広明

DPI世界会議の韓国大会に参加するために9月5日(水)から9日(日)までの4泊5日で韓国に行ってきました。僕にとっては初めての海外旅行なので、参加すると決意するまでに数ヶ月要しましたし、参加すると決めてからもパスポートの取得やら何やらで気が重かったのですが、でも、結論を先にいうと参加してすごく良かったです。いや、参加しなければものすごく後悔していたでしょうね。そのくらい楽しい韓国遠征でした。楽しかったばかりではなく、最後の最後でしっかりと想定外のオチがつくあたりは僕の日頃の行いのせいでしょうか…(失笑)。そのことも含めて極私的韓国メモリーベスト3を挙げてみました。

第3位：サムギョブサルの恨み！？

韓国に到着して2日目はあいにくの雨で気温が18度ぐらいまで下がったんですが、そんなことは知らずに半袖のTシャツ1枚で会場に向かった僕は寒さのあまり現地で震えが止まらなくなりました。DPIのスタッフに片言の英語で毛布を借りて膝掛けにしましたが、焼け石に水。これが日本であればすぐに帰宅するところですが、異国の地ゆえに一人でホテルに帰るにも方法が分からず、寒さと闘いながら必死に耐えました。そして、ホテルに戻るなりすぐに暖房をつけて毛布をかぶって寝ましたが、20時頃だったかな。行

動を共にする仲間から「そろそろご飯食べに行かか？」というお誘いが…。その頃には震えは治まってましたが、まだ2日目で先が長いので無理はせず、大事をとってそのまま寝たんですね。ところが、僕にとって今回の遠征の最大の楽しみでもあったお肉がその日の夕食のメニューで、しかも、そのサムギョプサルがメチャメチャうまかったらしく、写真を見せてもらったら、これがまたみんなうまそうに食べてるんだ！その姿に一瞬殺意が…というのは冗談ですが、泣くに泣けないほど後悔しました。

第2位：車道は命取り！？

僕たちが宿泊したホテルは韓国でも古い街らしく、歩道はデコボコだらけで歩車道の境界線は段差ばかり。あまりにバリアフルなんで、日本と同じような感覚で車道を走ろうとしたんだけど、この車道がまた危険極まりなく、さすがは車社会だけあって車が猛スピードでビュンビュン飛ばしてるんですね。しかも、大型バスが路肩スレスレを走るもんだから、車道の端で待機していてもバスは容赦なく突っ込んできます。当然避けてくれるだろうと思っていたら大間違い。避けてくれそうにないようなスピードで向かって来るから、こちらから避けないとヤバイくらい。おまけに青信号が短いので大急ぎで渡らないと信号が切り替わった瞬間にすぐ動き出す車が一斉に突っ込んでくるんだ。せっかちな大阪人は信号無視にも慣れてますが、韓国ではちゃんと信号を守らないと車に轢かれるかもしれません（苦笑）。実際マジで轢かれそうになったもん（ふう）。そんな車道は命取りなので仕方なくデコボコだらけの歩道を通りましたが、脳天まで響くような段差の衝撃と悪路で体が左右に揺れるせいで、首が痛くて痛くて数日間ずっと泣きそうでした。

第1位：車椅子が動かない！？

初めての海外旅行で不安材料はたくさんありましたが、体調を崩した以外は最終日まで万事順調…だったんです。関空に到着した後、しばしお別れしていた愛車と搭乗口でご対面した瞬間、

「やっと家に帰れるー」という安堵感でホっとし



観光地で案内してくれる日本語ガイドとのツーショット

たんですが、次の瞬間すぐに青ざめました。電源スイッチをオンにしてもまったく反応がないんです。ちゃんとケーブルを接続したのにまったく反応がないんです。何度か電源を入れ直してみてもまったく反応がないんです。携帯で車椅子業者に連絡して状況を伝え、言われるままに操作してみてもまったく反応がないんです。とりあえず帰国手続きを済ませてから航空会社の担当者と話し合いをしましたが、車椅子が動かないことにはどうにもならないので、結局、車椅子だけ関空に置いたまま僕は帰路につきました。19時30分には関空到着の予定が30分ほど遅れ、挙げ句は車椅子が故障で動かないというアクシデントで帰宅が予定より1時間30分以上遅くなりましたが、安堵感はすぐに吹っ飛んで、代わりに疲れがどっと押し寄せて来るというオチ。さすがに泣きましたが、それから数日間、修理が完了するまで外出できなかったのは言うまでもありません（失笑）。これが旅の疲れならまだ心地良かったんだろうけど、これからしばらく動けなくなるという精神的なショックは大きかったです。

「泣くに泣けない→泣きそう→泣く」で終わった4泊5日の韓国遠征でしたが、それでもやっぱりまた行きたくなるような国でもあったし、楽しい旅でした。大好きなお肉をあまり食べる機会がなかったことが心残りですが…。次回はぜひ焼き肉をたらふく食べたいところです（笑）

韓国旅行記

NPO 法人 ライフサポートはりま 出羽 節子

「DPI 世界会議が韓国で開催されるので参加してみませんか？」とお誘いいただいた時、「介助者が見つかりさえすれば是非とも参加させていただきます」と韓流ドラマの大ファンの私は二つ返事で参加させていただく事にしました。

それは秘かに夢を描いていたからかもしれません。例えば有名な「冬のソナタ」のロケ地に行けばヨン様に逢えるかも？とか、「チャングムの誓い」の宮殿に行けば誰か俳優に逢えるかも？また何処か街路で……等々。僅かな期待を抱いたからです。そんなこんなと浮き立つ心のうちに仁川(インチョン)国際空港に到着しました。そこで私がまず見張ったのは、いろんな国の人々が行き交い、韓国の若い男女がドラマに出て来る人達と同様に美しい事でした。向かうホテル迄の道筋でも高いビル、煌くネオンサイン、韓国を閉鎖的な国と思っていた私のイメージは、国際的な明るい国と一変しました。

そしてわくわくしながら BIWON ホテルへ着き、次の日からの日程を計画中、事が起こりました。私の足そのものの電動式車椅子にアクシデントが生じ、「ああっ、これから四日間ホテル監禁か？折角、頼んで来ていただいた介助者の方にも申し訳ないなあ」と一抹の不安が過りました。

ところがその夜の内に同行した心強い仲間とソウルCILの人達との連携プレーのもとに手動式車椅子をソウルCILから借りれる事になり、皆様への感謝の気持ちでいっぱいになりました。



御陰様でドラマ「チャングムの誓い」の中の宮殿(昌徳宮：チャンドックン)を見学するという念願が果たせました。また買い物に行った市場(東大門：トンデムン)で昼食を摂ろうとしていた時のことですが、お酒を飲みながらのんびり食事をしていたおじさん達が席を広く確保してくださったり、取り皿を余分にもらって下さったり自分達が食べている物を味見する様に下さったり、言葉は通じなかったけれどニコニコしながらまるで大阪のおちゃんおばちゃんを思い出す様な世話をして下さったのには国境を越えた人の心の温かさを感じました。まだまだ書けば尽きませんが……。



DPI 世界会議の名のもとに私の人生の一ページに綴る事が出来た感慨無量の有意義な旅をさせていただきました。重ねて感謝致します。ピア・カウンセラーとしてクライアントとセッションをする時、私は良く「一人じゃないのよ。仲間が沢山いるよ」と言って来ましたがまさにこの度は身を以って世界に心をつなげる仲間がいることを経験しましたので、確信を持ってこれからも語り続けて行きたいと思いました。

末筆にはなりましたが、懸命に介助して下さった介助者の皆様方へも心から感謝を致します。本当にありがとうございました。

「私の韓国体験記」

大阪頸損連絡会 西村 忠雄

九月五日から九日まで僕は韓国へ行ってきました。今年は DPI 世界会議の韓国大会が行われると知り行くことを決めました。しかし結局は会議には参加せず観光の韓国旅行になりましたが。僕は頸損になってからの海外旅行は二度目になります。一度目はハワイでしたがすべて用意された状態で付いていったという感じでした。しかし今回は兵庫のメンバーと合同でチケットやホテルなどの手配をすることになりました。車椅子だけでも 6 台で付き添いもあわせると 10 数名になりました。チケットの手配やホテルの手配が一番大変だったと思います。それに韓国の仁川空港についてからのホテルまでのリフト付きタクシーなども。

韓国についてからは雨が降っており夜に到着したこともあってタクシーに乗っていてもあまり景色は見えなかったです。しかし韓国の道路事情は聞いていた以上に悪く車の中でもよく揺れました。しかし橋や横断歩道などは綺麗にライトアップされていました。ホテルに着きみんなで夜のご飯を近所で食べようとなり、移動しましたが僕は行く途中に横断歩道を渡ろうと歩道から車道の段差を降りたとき、段差がきつくてステップを留とめているボルトが片方折れてしまいました。とりあえず横断歩道を渡りましたが、代えのボルトなど持っていないし折れているボルトの破片も取ることができません。僕の付き添いでくれた人に近くにコンビニがあるとのことでガムテープを買ってきてもらい近くに落ちてた針金とで応急処置をしました。これでなんとか自走することはできるようになりました。結局近くにあった店で晩ご飯は済ませました。

二日目は会議に参加するメンバーと観光するメンバーに別れて行動しました。しかしこの日も朝から雨が降っていたので建物の中で観光できるようなところを探し結局はタクシーでロッテ免税店に行きました。しかし売ってるものが高い



ので買い物はしませんでした。昼はそのビルの中にある食堂街でプルコギを食べました。とても量が多くおいしかったです。夕方にはホテルへ戻りました。そして会議に参加したメンバーも帰ってきて夜のご飯を食べに行くとのことでしたが僕はその日、ホテルに出前をとりました。韓国に行って食べたかったジャージャー麺とチャンポンにしました。量が多くて二人で食べてもキツイくらいでした。

三日目は天気もよくなり歩いて仁寺洞（インサドン）というところまでみんなで歩いていきました。しかし道が悪くて車椅子で歩くのが大変でした。手動を押している人は特に大変そうでした。それに車道へ出ると車も遠慮なくスピードを出しているので怖かったです。仁寺洞に着いてから買い物を楽しみました。ここでお土産も買いました。途中でコーヒーを飲んで一服した後、帰りも歩いていきましたが途中で雲ヒョン宮（ウンヒョングン）という故宮があり立ち寄って見学もしました。その日の夜は韓国に住むメンバーの招待で

大学路（テハンノ）という通りに行き夜のご飯を一緒に食べました。とても楽しいひと時を送ることができました。

四日目は昼から、また違う韓国のメンバーと合流してお昼ご飯を食べました。そのあと昌徳宮（チャンドックン）という世界遺産に登録されている故宮を見学しました。土地はとても大きく自然も多いすばらしいところでした。しかし道はやはりボコボコで上がり下がりが多かったですが（^_>）。見終わった後は二手に別れて仁寺洞へ行くメンバーとホテルへ帰るメンバーになりました。そして再び夕方になって合流して大学路に行き夕食にしました。僕はその後、仁川に住む韓国人の友達が大学路まで会いに来てくれたので近くの駅まで迎えに行きました。そして初めての出会いに喜びながらビールを飲みました。

最終日は昼過ぎで自由時間があったのでタクシーで東大門市場に行きました。タクシーで5分ほど走ったら着いたので歩いて行ったらよかったと思いました。ここでも少しお土産を買いました。そして美味しいと噂のバナナ牛乳も飲みました。東大門市場からは歩いて帰ることにしました。歩いていると露天で売っている人がたくさんいました。見て回るだけで楽しかったです。ホテルに戻りみんな集合して大型のリフト付きバス二台にみんな乗り込んで仁川空港へ向かいました。行く途中、道が混んでおり韓川をゆっくりみながら行くことができました。空港でも待ち合わせしている人と会うことができました。この人もメールやチャットでしか話したことなかったので会えてとてもうれしかったです。搭乗手続きを終え



て飛行機に乗り離陸予定時刻より遅れて関空へ向かいました。

今回の韓国旅行を一言でまとめると「とても疲れた！」ですね。といっても別に悪い意味ではありません。日本で準備万端と思っていても実際に行ってみないとわからないことも多かったし順調にことが運ぶとは限りませんでした。天候はもちろん思いがけないトラブルにも巻き込まれる可能性もありましたしね。しかし念願の韓国に行けた事や韓国の障害のあるメンバー達とも出会えたのでとても意義ある旅でした。今回の旅先の出来事を次にいかして再び新たな旅に出たいと思います。



DPI世界会議 韓国大会に参加して

兵庫頸損連絡会 三戸呂克美

2007年9月5日から始まった「DPI世界会議 韓国大会」に兵庫、大阪両支部のメンバー6名と、介助者、ボランティアを含めた総勢16名が参加した。会場は高陽市に在るKINTEXという国際大会にふさわしい大きくて立派な建物である。私たちは二日目からの参加で初日の雰囲気はわからなかったが、後日聞くところによると受付を含む会場はかなり混雑していたようだ。

9月6日、朝7時30分ホテル発会場行きの直通バスに乗り1時間30分の移動時間。乗客は我々の他に台湾、パキスタンからの大会参加者ばかり。道中は皆さん熟睡されていてお疲れの様子。高速道路は通勤の車だろうかいっぱいで韓国が今発展している姿がうかがえる。車窓からは田の中に建てられたビニールハウスが波のように見える。種類はわからないが野菜が作られているとの事。会場に着くが時間が早いのか人影もまばら。誰か知っている人と出会わないかと

建物の中をうろうろするが誰とも出会わない。朝食を取っていなかったのでどこかで食料調達をと思い見渡すと売店とカフェテリアがあり売店(ファミリーマート)でおにぎりやサンドイッチを買い食べているとどんどん人が増えてきた。各ホテルごとにバスが迎えに行っていたようだ。事務局の発表によると71カ国2500名の参加だそうだ。車椅子の人だけでなくあらゆる障害を持った人が集まっている。民族衣装の雰囲気から見てアフリカから来られているのだろーとなんとなくわかるが話しかける勇気と自信はない。ソウルCILのパク・チャノさんが発表するというので自立生活の分科会に参加した。他にも数名の方が発表されていた。発表者が日本に研修に来て学んだことを自国で実践しているという報告を聞き我々の生活が多くの人の手本となっていると思うと身が引き締まる思いがした。分科会を聞く頃には会場は参加者で埋め尽くされた。各国が出しているブースを見てまわると知る顔が見え



る。AJUの山田さん、三澤さん、今西さん、東京支部の今村さん、DPI日本会議の尾上さん、金さん、もっともっと出会ったかも知れない。外国で出会うと新鮮に感じるのは失礼なことなのだろうか。

私自身は韓国に行くのは2回目である。1回目は兵庫県で全国大会を開催したときだ。韓国の頸損者を招待して現状を話してもらおうといった企画で大会前に打合せで渡韓した。パク・チャノさんとはそのときお世話になったソウルCILの代表者だ。今回の渡韓は大会に招待した友人との再会も目的の一つ。再会の実現し楽しい一時を過ごすことが出来た。

外国に行き感じることは多い。言葉もその一つ。もっと話することが出来たらいっぱい聞く事ができるのと思う。そして日本の生活や環境とついつい比べてしまう。歩道をオートバイがかなりのスピードで走る。もちろん韓国でも違反だそうだが通勤帯の混雑時は許してもらえそう。横断歩道の信号はすべてではないが青に変わったとたんに点滅状態になりすぐ赤に変わる。車椅子では渡りきれない。日本では子供に、

青信号の点滅は渡ってはいけない、と教える。所変わればすべてが変わる。こういう事も現地に行かないとわからない。

今回はウォン高で円と交換しても余裕は無い。ホテルで交換するなら1万円が7万5千ウォン。2年前は1万円が9万8千ウォン、これでかなりのウォン高がわかる。しかし、日本でも円高だからといって日常生活に大きな変化は見られないのと同じで、韓国でも国内では大きくは変化のない生活を送っているように見受けられる。

韓国といえばキムチと誰もが答えるだろう。そのとおりで、現地で食べるキムチはうまい。料理というものはそういう物なんだろう。と、いっぱしのツウになったようにうなづく。しかし、辛い。なかなか馴染めない。韓国人で辛いのが食べられない人はどうするのですかと聞く。辛くない料理も有るよ、と。…愚問だった。

今回、DPIの世界大会ということで近くではあるが外国に行った。国際大会に参加するのも初めてのことであったが、各国で取り組まれている障害者施策がお国事情のある中で一つ一つクリアしながら問題解決をしているリーダーの発表を聞き、我々も問題解決に向けて一歩一歩確実に取り組むことが必要だということ学ぶ良い機会だった。

DPI（障害者インターナショナル）
ソウル宣言（仮訳）
2007年9月8日

障害者が要求をしないところには人権は存在しない。前回の札幌での世界会議においては、この基本原則に基づき、障害者インターナショナルは国連加盟国に対して、障害者の権利に特化した国際人権条約を採択するよう求めた。

今日、5年が経ち、国連加盟国、国際的な障害者運動、世界規模のリーダーたちや仲間による前例のない共同作業により、この条約を私たちは作り上げ、そしてそれ以上のものを成し遂げた。2006年12月13日、国連総会は障害者の権利条約と選択議定書を採択した。記録的な速さで、そして記録的な参加者を得て条約交渉がなされ、記録的な数の国々が署名開放日に署名をしたことで、この条約は、障害者の権利に関する私たちの言葉や見解を反映したものとなった。この条約は、障害者「に関する」ものというだけとどまらず、「私たちによる」「私たちとすべての人々のための」ものである。言い換えれば、私たちの権利、私たちの条約、そしてすべての人のために、ということである。

今、私たちは、DPIの25年にわたるあらゆる障害者の人権に向けての闘いとその成果を祝っているが、この歴史的な新条約の批准と実行に私たち自身、そして仲間たちがこれからも参画すべく準備すべき時が来ている。第7回DPI世界会議のためにここソウルに集ったわれわれDPIの2700名の人々は、重要な国際人権条約としての障害者の権利条約が、障害者の権利に取り組むためのあらゆる法律、政策、実践の基礎となることを宣言する。その上で、以下を呼びかける。

- 大韓民国を含むあらゆる政府が素早く行動し、確信を持って条約に署名し批准することで、2007年12月13日までに条約の効力が発生することを望む。
- あらゆる締約国は精力的に条約の義務を果たし、条約の言葉に命を吹き込むためにわれわれと共に取り組むことで、障害者の日々の生活に条約のビジョンが反映されることを望む。
- あらゆる国際人権条約体や機関が障害者と協働することで、条約に設定される基準がその取り組みに完全に反映される。
- あらゆる国連機関が積極的にプログラムに障害や障害者を包含することで、国連機関の推進する国際協力が条約の目的を前進させる。
- あらゆる国内人権機関が条約の啓発、知識、遵守を促進することで、国内レベルでの実行が現実のものになることを望む。
- あらゆる開発機関がミレニアム開発目標達成のための道具として条約を十分に活用することで、あらゆる障害者があらゆる側面の、そして持続可能な開発から平等に利益を得ることを望む。
- 市民社会に属するあらゆる人々が条約の批准と実行に関わることで、あらゆる人のために正義と平等が守られた社会という共通の目標を達成するために協働して取り組むことを望む。
- 障害者解放への闘いを共にするわれわれすべての姉妹兄弟が条約の批准と実行を優先課題として取り組むことで、われわれは共に求め続けてきた人権の実現を最終的に達成することを望む。

「海外旅行を100倍楽しむために」

全国頸損連絡会相談役 今西 正義

障害者が観光や視察、会議で海外旅行をするようになって、あまり年数が経っていない。今年9月には韓国でDPI世界会議が開かれ、日本からも数100名の人たちが参加したが、20年前にはとても考えられなかったことである。それまでは海外に行くには、相当のバリアを覚悟のうえで旅に出ていた。当時と比べると環境は随分変わったが、旅にできれば予期せぬトラブルやアクシデントはつきものである。障害は個々に違うためすべてをカバーすること不可能に近く、バリアフリー整備がどんなに進んでもトラブルは尽きることはない。だからこそ事前の準備は大切となる。今後、益々障害のある仲間たちが海外へ行く機会が広がるであろう、はじめて旅行を計画するときに、準備することや気をつけると、知っておきたいことなどを私自身の経験を通して紹介したい。

1. 旅に向けた準備

障害があっても「してみたい」「行ってみたい」など、夢を実現したいという気持ちは障害が有無にかかわらず変わらない。その夢の実現に向けては十分な準備をしておこう。

1) 何処に行くか？(方面、時期、目的を決める)

はじめに、旅行を計画するにあたっては「どの国で、何をしたいか」、有名な観光地へ、遺跡、美術館めぐり、自然を満喫、スポーツや体験、障害者との交流など目的をはっきりさせること。時期によっては目的を達成ができなくなることもある、例えば日本が夏の時期には南半球の国は真冬の季節であったりする。また行き先の国や都市によってバリアフリーの整備状況に差があり、まったく整備が整っていない場所もたくさんある。準備期間はおおむね3～4ヶ月くらいの余裕をもって準備することをすすめる。

2) 誰と行くのか？(人数の確定)

次に誰と旅行に行くか、一人の場合には身の回りのことが最低限自分で出来ることが求められる。行く場所によっては、現地で介護やガイドヘルプ等のサポートを支援するところがあるが、まだまだこうしたサポート体制が整っているところは少ない。なおADL(日常生活動作)が自立していなくても夫や妻、

親、兄弟と、気のあった友だち同士、またヘルパーなど障害を理解している人と出かけると安心できる。

3) 旅の予算を決める

行き先や時期、旅行の内容によっても旅行費用は大幅に異なってくる。特に年末・年始、ゴールデンウィーク、春休み、夏休みの時期は飛行機やホテルの料金も高くなるので時期を考えること。なお特別な手配、例えば車いすでバスや鉄道が使えない地域では、専用車やリフトタクシー等をチャーターしたり、荷物を運ぶポーターや専用ガイドを頼んだり、さらに通常の旅行費用に加え代金が嵩んでくる。

4) どのような旅行をしたいのか？

旅行の形態は大きく3つに分けられる、①旅行会社がバリアフリーに配慮した観光・視察ツアーを企画し参加者を募集するパッケージ旅行(募集型企画手配旅行)、②個人や施設・障害者団体の希望や障害に応じて旅行会社がバリアフリーに配慮して作るオーダーメイド旅行(受注型企画手配旅行企画)、③航空券やホテルなどの旅のパーツのみを扱う手配旅行がある。

どの形態を選ぶかは目的や内容によっても違うが、とにかく旅先で自由に動きたい人は個人旅行になる。なお都市や乗り物、ホテル等のバリアフリー情報などを調べる方法や時間のない人はオーダーメイドの旅行を旅行会社に頼むと良い。

5) 転ばぬ先の情報収集と提供

旅先では、どんな出来事に遭うか計り知れない、そのため出来るだけ情報を集めておけば、事前の対応と心構えが出来る。情報の収集は都市や観光地、ホテルや移動手段のバリアフリー状況を把握すること、またバリアに対する対応策や代替方法を調べておくことが狙いである。

① 情報はインターネットで

最近ではインターネットを活用した方法が最も効率的である。ネット上には実際に旅行に行ってきた障害者の体験記や写真、また公的機関、商用のホームページなどに数多く欲しい情報が載せられている。こうした情報を丹念に検索していくと、思いがけない情報にぶつかることがある。情報探しも旅行

をする上での楽しみの一つといえる。

② 信頼度の高い情報確保

情報は信頼性が一番である、古いまま情報が更新されないまま載せられているので気をつけること。その点、各国の政府観光局や航空会社などの公式サイトに載せられているバリアフリー情報は比較的新しく信頼性が高い。例えば香港政府観光局、オーストラリア政府観光局、オアフ観光局などがある。直接メールや電話などで最新情報を得るとよい。

③ 情報のうのみは禁物

ホームページや雑誌などの情報は一方的に発信されているものが多く、バリアフリーに対する考え方や基準もまちまちで、そのまま情報をうのみにするのは禁物である。障害により対応は個々に違い使い勝手も異なるので必ず確認を取ることをすすめる。また問合せをした時に「大丈夫」「ノープロBLEM」という言葉がよく使われが、非常に便利な言葉であるが曖昧なので注意しなければならない。

6) 快適な旅行を続けるための情報提供

安心感を得るためにはいろいろなチャネルを活用して情報を集めておくことは言うまでもない。同様に航空会社やホテル等に自分の障害について最低限の情報を提供していくことも安心感と快適性を得る上で必要とされる。

① 航空機利用

予約の際に自分の障害について、また配慮して欲しいことをきちっと伝えておくこと。例えば、車いすや電動車いすを利用していること、人工呼吸器等の医療機器を持ち込むなどである。配慮についても飛行機のドア近くまで自分の車いすでいきたいことや、足元の広めの席や通路側の席、可動式肘掛けのある席の指定、食事には'刻み食'を用意することなど具体的なリクエストをしていくといい。航空会社には専門の窓口がある、日本航空ではJALプライオリティゲスト予約センターが、全日空ではANAスカイアシストデスクが設けられている。また外国の航空会社では、アメリカン航空、ユナイテッド航空、ニュージーランド航空などホームページで案内がされている。

② ホテル利用

ホテル予約でも、車いす利用あることを伝え、建物の入口のアクセス、館内の導線、客室の作りを、また最近はセキュリティが厳しく客室へのエレベーターに乗るにも部屋のカードキーを差し込まないと動かないものもあるので十分確認しておくこと、な

お配慮をして欲しいものがあればリクエストしておくといい。滞在期間がどんなに短くてもトイレや入浴、洗面、就寝など毎日のことなので不便を感じないようにすることである。アジアの国々でも欧米の資本が入っているホテルでは、車いす障害者に配慮されたアクセシブルルームを持つところが多い、また一般客室も日本のようにバス・トイレの入口に段差があるユニットタイプのところは少なく障害程度によっては十分に使えるところもある。バスルームはバスタブがあるのか、シャワーしかないのか、また入口の段差やドア幅、トイレの手すりの位置、ハンドシャワーや手すりの有無などを、ベッドの高さについても車いすからよじ登るようなものもあるので、自分の車いすの幅や座面の高さ等を伝え調べてもらうとよい。

③ 乗り物への乗り継ぎ

旅先では、観光・視察の都市間移動で飛行機以外のバスや列車、船などさまざまな乗り物を利用することが多い。しかし、バリアフリー設備が整った乗り物は少ない、特にこうした移動手段で困難になるのが車いす障害者である。またオプションツアーに参加するにしても車いすで参加できるものは少ない。現地に行ってからでは対応できないものもあり、事前に運行している会社を探し、確認とともに自分の情報を流しておくこともスムーズな移動を確保することで大切となる。

2. 旅をする上での注意

1) 自分の能力を過信しないこと

旅に出ると日常の規則正しい生活から開放的され、チャレンジ心も高まってくる。国によっては、障害があってもパワーボートやパラセーリング、バンジージャンプなど危険な乗り物やスポーツにもチャレンジさせてくれる。国内のレジャー施設では乗り物や遊具に乗る際に細かな規則で制約されているが、やる気があれば快く手伝ってもらえる。しかし万が一、ケガをした時のリスクは選択した本人が負うこと、自己責任が問われるので十分に注意すること。こうした意味では自分の障害について、また残された能力をきちっと掴んでおくことが求められる。

2) 入国での注意

旅行中障害によっては、毎日常用しているクスリを大量に持参することもある。その際、クスリについては英文で薬剤名(商品名ではなく)や服薬量や回数な

ど情報をまとめておくといい。外国の通関では、麻薬、覚醒剤を厳重に調べる国が多く、薬を誤って没収されてしまうトラブルもあるので注意が必要である。また人工呼吸器など医療機器を利用している人では、英文の診断書を主治医に書いてもらうことをすすめる。現地で状態が急変した時に病院で説明や検査にあまり時間を掛けないためにでもある。

3) 病気、ケガ等保険

海外旅行では海外旅行傷害保険に必ず入ることをすすめる。旅先では何が起きるか予想することができない。事故やケガ、病気や他人をケガさせたり、物を壊したり、盗難に遭うことも珍しくない。障害や病気があっても加入することが出来るが、告知事項の欄に病気の種類や症状を記入しておくことを忘れずに、何も書かずに加入し、後で保険金が出ないこともある。海外で入院し治療を受けただけで数百万円を請求されることも決して珍しくはない。保険会社は告知事項の内容を見て補償の範囲を判断し、補償額や保険料の再計算をしてくれる。大手の保険会社では東京海上火災保険株式会社、JI傷害火災保険株式会社、AIUなど3社があるが、どの保険会社を選ぶかは、日本語によるサービスが現地でどのくらい受けられるかなどを目安にするといい。主要な都市には、現地の総合病院や一般病院と提携し治療や処置を行う、なかには日本語の話せる医師やスタッフのいるところもあり、こうしたサービスを提供してもらえるところを調べておくこともひとつである。緊急の場合には日本大使館や領事館で病院を探してもらうこともできる。

3. 知っておくと便利なこと

1) 福祉用具の活用

① 簡易電動車いす

観光や視察など移動範囲が広いところでは電動車いすは大きな力になる。長い距離を移動したり、坂道や凸凹道、段差を越えたりと決して平坦な道ばかりではない。腕力に自信のない頸損者や車いすを押す介助者には厳しい。その点、手動車いすに変わる簡易電動車いすは軽量で折りたたみでもスピード(時速2~4km)も抑えられているので、はじめての人でも扱いやすい。旅行の期間中だけのレンタルもでき、事前に空港などへの宅配もしてもらえるので便利である。

② 手動式車いす

バリアフリー整備が進んでいない地域へ普段利用している電動車いすで行く場合には、折りたたみが出来る簡易電動車いすに代えていくか、手動車いすを別に持っていくと便利である。重量の重い電動車いすでは、段差の多い歩道や店の入口の階段で身動きがとれなくなってしまう可能性が大きい。こんな時、軽量で折りたたみが出来る車いすがあればタクシーのトランクに簡単に積み込めるので、使い分けをしながら旅行を続けることが出来る。

③ 手作りスロープ

旅行中、電動車いすを使用しながら移動をしたり、手動車いすから座席への乗移りが困難であったりする場合、リフト付バン等の手配ができると便利である。しかし、タイやインドネシア、ベトナムなどアジアの国々ではリフト付バンがないところが多い。こうした場合に手作りスロープを用意するといい。事前に現地のオペレーターをしている会社に旅行会社を通して、通常のバンの座席を取り外し、長さ180cm、幅20cm、厚さ3cmくらいの2枚の板を準備しておいてもらうといい。この板がバンへの乗り降りのスロープ変わりにになると同時に、階段がある建物のスロープ代わりとして活用できる。

④ パンク修復剤

海外で車いすのタイヤがパンクすると簡単に修理することは難しい。修理をしてくれるお店を探すだけで貴重な時間を費やしてしまう。そのため普段から利用している電動車いすや車いすのタイヤにパンク修復剤を入れておけば、いざというときに困らずにすむ。

2) 移動手段の確保

ヨーロッパやアメリカ、カナダ、オーストラリアの都市では、車いすのまま路線バスや鉄道などの交通機関が利用できることがあります。しかし、都市内に限られることが多く、郊外や少し離れた観光地まで整備が進んでいるとは限らないこと。でもこうした都市の多くにはリフトやスロープを付けたバン、また手で運転操作ができるハンディコントロールカーのレンタカーもあるので上手に調べ活用するといい。

3) ホテル内のバリアは工夫で解決

障害が重く車いすからベッド、トイレなど自力で乗り移りができない場合でも旅行を諦めることはない。海外でリフターが設備されているホテルを時間と労力を掛けて探したすより、ホテルのスタッフやポーターにお願いすれば乗り移りなど気軽に手伝っ

てくれる。また設備でもシャワーチェアがなくてもデッキチェアなどを代用したり、現地で手に入るものを活用したり柔軟な発想と工夫で乗り越えよう。

4. おわり

旅先ではいろいろな出会いがある、日本では観ることの出来ない風景や建物、自然、食べ物や文化など限りがない、なかでも人との出会いは最も印象を強く残す。人との出会いによってその国が身近に感じられて第二の故郷になってしまう人もいる。私自身もオーストラリアの小さな街が好きになった。そこは交通の便があまり良くないため観光客も少なく、雰囲気も落ち着いている。洒落たコロニアル風の街並みを電動車いすで散策。店やレストラン、建物は、意外なほど整備が進んでいる。近くにある島

に渡ればシュノーケリングもでき遊んだ後は、冷えた体をワインで温める。フィッシュアンドチップスをつまみながらくつろぐ。海から吹き寄せる熱帯の風が心地よく酔わせてくれる。ひたすらのんびりと過ごす――それがここでの一番の楽しみ方だ。この街を教えてくれたのは、地元で長くバリアフリーの活動に取り組んでいる女性だった。彼女の強い誘いで出かけてきたのがきっかけで、その後も体と心をリフレッシュするため何度もこの地を訪れた。

人とのふれあいが、こんなにすてきな時を楽しませてくれる。旅先では、出会った人々が、バリアを取り除いてくれることも少なくない。世界は広い、思いがけないところに、安心して旅行ができる場所がある。

会員紹介

大阪頸損連絡会事務局員 吉田 憲司 「人工呼吸器仲間と海岸沿いで BBQ サミット」

こんにちは、吉田憲司といます。大阪頸損の会員用メーリングリストの管理者をやらしてもらっています。その関係なのか、どうなのか…「何か書いてみー」と話が回ってきた次第です。自己紹介で歳を言うのがつらくなってきたんですけどねえ。簡単に自己紹介です。

吉田憲司。大阪在住の 30 男。高校のクラブ練習中に頸椎を損傷。人工呼吸器を使用。株、パソコン、読書（漫画込み）とオタク道まっしぐらです。

先日、西明石に行ってきました。正確には朝霧大蔵海岸、いろいろな事件で有名になってしまいましたが見晴らしの良い、いいところです。兵庫頸損連絡会主催のバーベキューのイベントに参加するためでしたが行ったら終わっていました。最もお目当てはその後の交流会の方にありましてメーリングリストで教えてもらった携帯用拡声器を試すことが今回の目的です。そのためにサンプル品を借り、貸し出し期間3日間のところ、返済を1週間に延ばし延ばしにした気合の入れようです。

ハンズフリースピーカー ギガホン

<http://www.nanzu.jp/syohin/fhgiga.htm?source=ga4A>



ハンズフリースピーカーを使って
コミュニケーションに挑戦

人工呼吸器をつけているととにかく喋りづらい。ようやく絞り出した声も声量が少ないものだから本当に静かなところでしか相手の耳には届かない。イベントなどの目的で外出した場合は公共の施設が多いですから大抵の場合、話をしようにも相手に聞き取ってもらうのは難しいのです。特に話しかけられたときに相手に声が届かないと結構つらいものがあります。外出先でコミュニケーションが成立しない、というのが外出時のいくつかある悩みのうちのひとつです。それを解消する試みが今回のイベント参加です。

結果からいえばこの試みは大成功でした。浜辺での会話も思ったよりうまくいきましたし何よりも何気ないイベントに呼吸器利用者が4人も集うのもすごいことです。10年前では救急病棟以外ではありえなかった光景ですからね。そのうえいろいろと話までできたのですから時代も変わったなあ、と感慨深いものがありました。個人的には今後にもつながるような期待が持てるイベントだったと評価しています。

帰りは例によって魚の棚により道。試食のわさび漬けコンブのうまさに男泣きでした。



明石海峡をバックに呼吸器メンバー4人で談笑

5月中旬に総会をして、年度の活動計画を立てました。

前年度は、頸損者が地域で暮らす中での問題点を掘り起こし、あがって来た意見を基に医療・シューティング等について勉強会を行いました。今年度は会員や会員の家族が楽しめるレクリエーションを久しぶりにやることになり、伊豆でお泊まり会をしました。頸損

者の家族の楽しいレクリエーションであることも大切でもあるので、頸損者主体である会であるとともに、家族の人にも必要性のある会であることも視野に入れて活動をしていきたいです。静岡頸損会員それぞれが様々な目的で参加し、楽しめるレクリエーションも良いと感じさせられました。



水族館でレクリエーション



ホテルでの語り合い

■キーボード入力が苦手な方へ

Japanist 2003

富士通ミドルウェア

手書き入力機能を搭載した日本語ユーティリティソフト

製品概要・仕様

動作環境: [windows]

対応 OS: WinVista WinXP WinMe win2000 Win98
Win95 WinNT

価格: ¥ 4,469 (税込) アマゾン

一度入力された言葉を覚え、次からは読みを2文字入力だけで予測される単語や短文を自動的にリストアップします。後は単語や短文を選ぶだけで入力できます。キーボード入力をとても減らすことができます。



■マウス操作が苦手な方へ

チューチューマウス for WIN32

マウスカーソルをボタンやフォーカスに自動的に移動、IE ナビ搭載

動作 OS: WinXP WinMe win2000 Win98 Win95
WinNT

動作機種: 汎用

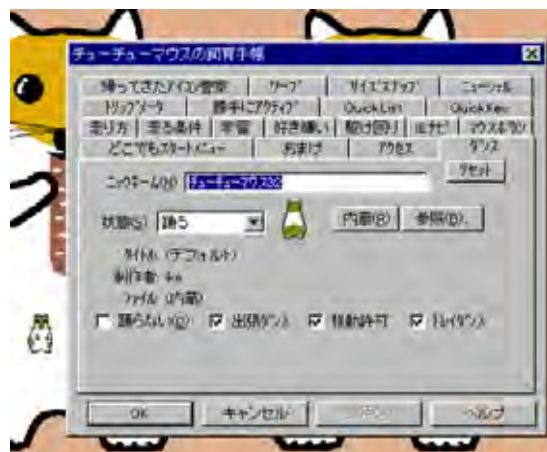
ソフトの種類: シェアウェア 1,365 円(税込)

作者: 江口 亨

作 者 ペ ー ジ :

<http://homepage1.nifty.com/ikehouse/>

チューチューマウスは、マウスカーソルが変身して【はい】、【いいえ】を聞いてくるウィンドウのボタンなどに素早く走ったり元の場所に戻ったりして飼い主を楽にさせてくれるソフトです。シェアウェアですが、障害者が障害者手帳のコピーをユーザ登録のときに開発者に送れば免除されます。詳しくは、チューチューマウスのヘルプファイルの「料金について」をご覧ください。





報 告

私たち抜きに私たちのことを決めないで！ 今こそ変えよう！「障害者自立支援法」 10.30 全国大フォーラム

事務局長 八幡 孝雄

10月30日(火)、東京の日比谷野外音楽堂に全国から約6千人の人が集まり、“私たち抜きに私たちのことを決めないで！今こそ変えよう！「障害者自立支援法」10.30全国大フォーラム”が開催された。厚生労働省前でも集会、アピール活動を行った。当会会員も、東京近郊ばかりでなく全国からたくさんの人が参加した。

フォーラムでは、6政党が政党アピールを行い、5政党がシンポジウムに参加した。各地の実態報告では、様々な地域、様々な分野で、「自立支援法」によって苦しめられている実態が明らかにされ、「抜本的

見直し」の必要性を再確認、緊急アピールを採択した。

フォーラム終了後、要請団は「緊急見直し等を求める要望」を舛添厚労大臣宛に提出し、障害保健福祉部企画課長などが対応した。

昨年4月、障害者自立支援法は私たちの疑問や反対の声を無視するように施行されたが、障害者の自立生活を支える法律としては、問題だらけである。自立支援とは名ばかりで、自立を阻害し、地域で暮らす

基盤が崩壊している。サービスの地域間格差も生まれている。

この制度では応益負担が導入され、以前とは比べ物にならない自己負担が発生、生活費を削ったり、サービス利用を控えて命がけの生活を送っている人もいる。厚労省は特別対策や、さらなる軽減策をとったが、障害が重ければ重いほど、多くの負担が課されるという状況は変わっていない。

また事業所への報酬単価の改正により、事業所経営が困窮、介護ヘルパーの確保が十分できない状態となった。結果、サービス利用希望者がいても、派遣するヘルパーがいない状況が起こっている。もはや介助制度の危機的状況なのである。

このような厳しい状況に置かれた障害者施策は、昨年国連で採択された「障害者の権利条約」に、いちじるしく乖離した状況であるが、日本政府はまだ国内批准していないため、その効力が国内法には及ばないままである。

障害を持つ人が支援サービスを受けることが、利益を受けているとされる制度は、どう考えてもおかしい。誰もが進んで障害者になった訳ではなく、不条理な扱いを受けているとしか言いようがない状況に置かれている。私たち抜きで決められてしまった法律によってもたらされた、私たちの現状を打破するため、全国から約6千人の人が集まったのである。

政党シンポジウムには、自民、民主、公明、共産、社民の国会議員が出席。すべての議員が、同法には問題があり、見直しが必要であるということで意見が一致していた。だが与党議員は同法の枠内での見直しを検討したいと主張、野党側は法律を根本的に見直すべきと主張、意見は平行線のままであった。私たちの現状に理解を示さないような発言には、会場からブーイングや野次が飛び交い、会場が騒然とする一幕もあった。与党ではプロジェクトチームで見直しを検討しているというが、具体的な内容は明示されなかった。民主党は秋の臨時国会に、応益負担の凍結を柱とした、緊急措置的な法案を提出している。

採択された緊急アピールでは、「障害者予算の大幅な確保」「自立・地域生活支援に向けた制度確立」「当事者の参画の場を保障」「応益負担を廃止」「一人ひとりの生活要求に基づいたサービス支給システムにする」ことなど、8項目の要求を確認した。代表団が大臣宛に要望書を提出した後、夕闇の厚労省前で経過報告が行われ、長い一日の戦いは終わった。

国会情勢が不透明な状態で、民主党提出の見直し法案もどうなるか分からない。そのような情勢ではあるが、自立支援法の日も早い抜本的見直しの必要性を、私たちはあきらめることなく、強く訴え続けていかなければならない。



07 秋の代表者会議報告

事務局長 八幡 孝雄

日 時： 2007年10月6日（土）15時半～10月7日（日）12時
場 所： 国際障害者交流センター・ビッグアイ 小会議室
参加者： 三戸呂（本部・兵庫） 坂上（本部・大阪） 菊地（本部・東京）
八幡（本部・東京） 麿沢（本部・東京） 鴨冶（東京） 星野（神奈川）
近藤（愛知） 鬼頭（愛知） 古屋（京都） 赤尾（本部・大阪）
鳥屋（大阪） 宮野（兵庫） 平子（ボラ：記録）
オブザーバー参加：米田（兵庫・人工呼吸器） 池田（兵庫・人工呼吸器）

秋の全国頸損連絡会代表者会議を、大阪府堺市にある国際障害者交流センター・ビッグアイに於いて、上記日程で開催した。この度の宿泊会議には人工呼吸器使用の米田さん、池田さんがオブザーバー参加して下さった。年々、重度化する当会役員ですが、近い将来に人工呼吸器の役員が誕生するのではないかと予感させる二日間でもあった。

会議では①全国総会の反省、来年度「大阪大会案」検討、②DPI韓国大会参加報告、③全国頸損・リハ工学協会「合同シンポジウム案」検討、④新「入会案内」作成案検討、⑤頸損実態調査について等が話し合われた。

夜の自由討議では、人工呼吸器使用でオブザーバー参加のお二人から、色々なお話を伺う中で、入院拒否される高位頸損者の問題など、切実な悩みが出された。またチャレンジ精神あふれるお二人とお話していると、人工呼吸器が生命維持装置から、QOL（生活の質）を高める福祉機器となりつつあると感じられた。人工呼吸器使用者でも自由に活躍できる社会環境を一日も早く実現



しなければならぬと真剣に考えた夜であった。

また、頸損者に対する諸制度はサービス格差問題など山積しているが、制度を利用して生活を送り、問題解決に取り組む時、私たちの行動が誤解や批判の目にさらされることがある。私たちは頸損連絡会の社会的使命の重要性を自覚し、私たちの活動は「誰のためであり、どんな問題を解決するために行っているのか、きちんと説明できる形で活動」することを全員で確認し合った。

「東京の交通機関の現状について」

交通行動東京実行委員長 伊藤 雅文

普段から電車やバスを利用して、実感されている方も多いと思いますが、交通バリアフリー法施行後、それ以前とは比較にならないスピードで、交通機関のバリアフリー化が進んできました。事実、交通事業者との交渉でも、2010年迄に鉄道では全ての駅へのエレベーターの設置を、バスでは全車両をノンステップバスへ代替えを明言する事業者が出てきています。やはり法律とはこれ程の影響があるものなのかと思うところでもあります。しかし、誰もが「安全に安心して自由に」利用出来る環境が実現しているかというと、まだまだ程遠いのが現実です。

鉄道においてはまず、一部の地下鉄や新交通を除いて、ホームドアやホームゲートが設置されておらず、視覚障害者（だけではありませんが）のホームからの転落の危険性が改善されていない事。電車とホームの段差が殆ど解消されておらず、車椅子使用者が乗降車の際には、駅員の介助が相変わらず必要である事。また降車時には駅間連絡ミスで駅員が待機していなかった為に、降車出来ない事例が後を絶ちません。

バスにおいては、確かにノンステップバスの導入が進み、車椅子使用者の利用可能なバスがかなり多くなりました。（今年度末で都内路線バスの約7割）しかし、研修未熟な運転手による機器操作の不確実性、車椅子使用者への差別的対応が数多くみられ、車

両増加分の利用のし易さは感じられません。

また、ハンドル式電動車椅子使用者への、新幹線をはじめとする、デッキ付き車両への乗車拒否問題、バリアフリー化不完全な状態でJR東日本が強行した、八王子支社管内の駅員削減による、車椅子使用者への乗車制限問題等々、難問山積ですが、これらは障害者の移動権が法律に明記されていないが故に起こる不当な差別です。

昨年12月に「交通バリアフリー法」と建築物のバリアフリー化を求める「ハートビル法」を統一した「バリアフリー新法」が施行され、従来の鉄道、バス、航空機、船舶等の他にタクシー、コミュニティーバス、都市公園、駐車場、宿泊施設等もバリアフリーの対象に加わりました。誰もが使い易い、ユニバーサルデザインでの施設整備が求められます。従来の当事者参画手段である、自治体による基本構想作成の他に、住民からの提案による基本構想作成が制度化されました。

交通機関のバリアフリー化が進んできているとはいえ、事業者間や地域間格差は広がっており、線ではなく広い面での移動が「安全に安心して自由に」そして、「誰もが」できる環境が整うまでは、相当年かかると思われます。皆さんにも是非地域の交通機関改善の協議会や運動に、御参加頂きたいと思います。（東京も）

誰もが使える交通機関を求める全国行動

東京頸損連絡会 宮原映夫

去る11月4日(日)に行なわれた毎年恒例の交通行動(全国行動東京実行委員会主催)に、加盟団体である東京頸損連絡会メンバー、全国頸損役員の皆さんたちと共に参加をしました。当日は見事な晴天に恵まれ、まさにデモ行進日和でした。例年より参加者数が少なかったようですが、気持ちの良い集会活動になり、特に渋谷駅周辺のデモ行進では最高のアピール活動になりました。



当日のスケジュール↓

- 12:00 宮下公園に集合、集会(各社交渉の結果報告)、来賓挨拶
プチ・シンポジウム「バリアフリー新法と現状の諸問題」
シンポジスト: 今福義明、パネラー: 問題を抱えている方々
- 15:00 アクセス統一行動デモ行進(宮下公園→渋谷区役所経由→宮下公園)
《一時デモ解散》→渋谷駅
- 15:45 渋谷～新宿まで参加者全員で乗り込み行動
- 17:00 新宿小田急ハルク玄関前通路側に集合し、来賓挨拶、ビラ配り、募金、
街頭アピール活動
- 17:30 終了、解散



西遊記 広島編

「広島頸損ネットワーク・きりんの会」訪問

大阪頸損連絡会 鳥屋 利治

西へ西へ。兵庫頸損連と大阪頸損連の、三蔵法師、孫悟空、沙悟浄、猪八戒の一行は、西の方角、中国地方にかねてより頸損者の、地元根ざした独自の活動を展開しているとても元気で愉快的妖怪たちがいることを聞いており、その姿をこの目で確かめ、相まみえるため、いざ妖怪たちの棲むという広島へ一路めざして旅に出た。われわれ西遊記伝説の一節である。

7月29日猛暑の日曜。JR広島駅に降り立った宮野、坂上、赤尾、鳥屋ら、人間の姿に身をやつした西遊記の一行は、駅前のエールエール館11階バンケットルームに案内された。そこで今回会う目的の広島の妖怪たちと出会った。そう、その彼らこそが「広島頸損ネットワークきりんの会」。われわれと同じく妖怪から人間の姿に化けた「広島頸損ネットワークきりんの会」の大竹保行さん、迫畑吉美さん、久留井真理さん、服部真美さん、徳政宏一さん、谷本弘蔵さん、そして久代卓司さんら皆さんに温かく迎えられ、もてなされて宴が始まった。美味しい広島焼きや幻霜ポークステーキ、お酒のご馳走に舌鼓を打ちながらしだいに打ち解けあい、それぞれ自己紹介。広島と関西でのお互いの取り組みや活動も伝えあった。それによると、何でも「広

島頸損ネットワーク」は発足10年目。かつて広島で、頸損仲間が互いに支え合い助けあっていくために数人が立ち上がった。以来これまで会長として、会の屋台骨として全面に立ってこられた大竹会長から、若き獅子谷本弘蔵さんに今年会長職がバトンタッチされた。受傷前、レスリングをしていた谷本新会長は、完全四肢麻痺のため顎で操作するチンコントロール電動車椅子に乗っている。大竹前会長と同じく骨太で大柄、一見イカツク見えるが優しい瞳と穏和な口調、しかも体育会系のキリッとした礼儀と態度にその中身の大きさまで伺えた。広島が今後ますます活気づくことを予感させた。あったかい皆さんにすっかり魅了され意気投合。元気で陽気な妖怪たちのその魅力。さては「広島頸損ネットワーク」の皆さんの妖術に引かれたか。和やかな雰囲気交流会に、今後も協力しあっていこうと誓いあい、宴のあとも別れを惜しんでそれぞれが話し合った。地域を越え、組織を越えて出会うこと、つながりを深めていくことの大切さを痛感した旅であった。

さて、われわれ一行はこのあと11月4日西国四国4県の頸損者の集まりに向かうのだった。西遊記伝説、四国中央市編をまた報告します。



「第二回・四国頸損連絡会の報告」

愛媛頸損連絡会 坂本 一彦

2007年11月4日、愛媛県四国中央市・市役所4階において第二回の四国頸損連絡会の集いが開催されました。始めて開催した昨年の四国頸損連絡会の集いでは、徳島、高知、愛媛からの参加でしたが、今年は香川からも参加があり、これまでになかった四国の頸損者同士の意見交換を行うことができました。また今回は関西からの支援があり、兵庫・大阪頸損連絡会の坂上氏、鳥屋氏、宮野氏にご協力いただきました。

はじめに簡単な自己紹介の後、昼食を食べながら交流を深め、その後各県の現状報告を行いました。香川からは白川さん、徳島はヒューマンケア徳島代表の天野氏、高知は高知頸損連絡会の小松氏、地元の愛媛頸損連絡会からは坂本が現状や活動報告を行いました。そこで感じたのは活動団体がいないと情報不足となり、頸損者の生活にも大きな影響を受ける恐れがあると思いました。たとえば昨年のような障害者自立支援方などは、情報が不足すると障害者が不利益を被ることがわかりました。

後半は、鳥屋・宮野の両氏より全国・関西の活動報告が行われて、全国総会・兵庫大会、愛知大会の様子やリーフレットの作成、カナダ・バンクーバー訪問やDPI韓国大会の報告など、また市民講座・人工呼吸器を使用している方たちの自立生活への取り組み、そして来年の大阪総会の案内があり、有意義なお話を伺うことが出来ました。どちらの報告も大変刺激を受けるもので、参加者の皆さんには、満足していただけたものと思っています。

特に報告の中でも注目されたのが、市民講座、ベンチレータ(人工呼吸器)を使用している方たちの報告でした。地元の会員の中にもベンチレータ使用者がいますが、私たち頸損の中でも少数派となるため情報不足になっているのではと心配しています。兵庫頸損連絡会が行った市民講座は、大変興味を持ちました。愛媛頸損での開催は難しいけれども検討してみたいと思いました。

次回の開催については、4県から集まりやすい四国中央市、地域の活動の都合もあるので、来年の11月と決まりました。今後の四国の頸損者の活発な意見交換を期待しています。

「交流の様子」



頸損でも楽しめるスポーツ

集めてみました。まだまだあると思いますが…

電動車椅子サッカー

その名の通り、電動車椅子を使つてのサッカーです。試合時間は20分ハーフ・1チーム4名(うち1名はゴールキーパー)

JPFA 日本電動車椅子サッカー協会

JPFA ホームページ <http://www.web-jpfa.jp/index.html>

ツインバスケット

車椅子ツインバスケットボールは、下肢のみではなく、上肢にも障害を持つ重度障害者でも参加できるように考案されたスポーツです。

JWTBF JAPAN WHEELCHAIR TWIN BASKETBALL FEDERATION

JWTBF ホームページ <http://twinbasket-alljapan.com/>

ウィルチェアーラグビー

ウィルチェアーラグビーは、四肢麻痺者等(頸髄損傷や四肢の切断、脳性麻痺等で四肢に障害を持つ者)が、チーム・スポーツをする機会を得るために 1977 年にカナダで考案され、欧米では広く普及している車いすによる国際的なスポーツです。

JWRF 日本ウィルチェアーラグビー連盟ホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~jwrugby/>

アーチェリー

パラリンピックの正式種目で頸髄損傷者でも装具を使ってやっている方がいます。

日本身体障害者アーチェリー連盟 **ホームページ** <http://shinshoaren.holy.jp/index.html>

車椅子陸上競技

一般の陸上競技に準じて行われているが、障害を考慮して実施種目や競技規則、用具などを一部変更している。頸損でもレーサー(陸上競技用車椅子)でマラソンなどがある。

日本身体障害者陸上競技連盟 **ホームページ** <http://www.jaafd.org/renmeigaiyou.html>

日本障害者スポーツ協会

パラリンピックなど障害者スポーツの情報がたくさんあります。

http://www.jsad.or.jp/JPC_top.htm



場所 東京都江東区夢の島 3-2 BumB 東京スポーツ文化館

期間 2007年10月7日(日)～14日(日) 8日間

参加国 アメリカ、ベルギー、デンマーク、イングランド、フランス、日本、ポルトガル 約180名

記念すべき第一回『FIPFA World Cup Japan October 2007』（電動車椅子サッカーW杯）を観戦して来ました。世界より七カ国の代表チームが集まり、国際色豊かな中、場内には様々な国の言葉が熱く飛び交っていました。日本チームは準決勝で残念ながら敗れてしまい3位決定戦へ、ベルギーとの対戦1対1のまま延長戦も終えPK戦。惜しくも4対5で敗れ結果4位に終わりました。決勝戦は日本を敗ったフランスとアメリカの対戦、1対1のまま動かずPK戦へ6対5でアメリカが勝利、初代W杯王者に輝きました。

頸損の中には電動車椅子を使う方は多いはず、しかし行なえるスポーツは限られてしまいます。日本にも数多くのチームがあり、頸損でも何名かやっている方がいるそうです。さらに電動車椅子に限った国際競技にもなっていることで、国際交流にも繋がります。もちろん代表選手になるまでには厳しい練習や努力が必要だと思われますが、サッカーが好きな方はトライしてみるのはいかがでしょうか？また身近な所で仲間を集めてやってみるのもいいかもしれません。将来オール頸損のチームが出来たら面白いですね！

電動車椅子サッカーの歴史

- 1978年 フランスで重度身体障害者学生のために「Wheelchair Electric Football」が考案される
 - 1979年 カナダで独自の競技規則による「Power Soccer」が始まる。1980年初期 カナダからアメリカ、日本に「Power Soccer」が伝わる。
 - 1980年 各国独自のやり方やルールで行なわれてきたが、「Power Chair Football」が世界規模で普及してきたことで、国際交流が活発に行なわれるようになる。
 - 2005年 1月 パリ（フランス）で国際会議が開催され、FIPFAの前身であるIPFAが組織される。参加国はアメリカ、カナダ、イングランド、フランス、日本、ポルトガルの6カ国。
 - 10月 アメリカ、カナダ、イングランド、フランス、日本、韓国、ポルトガルに、ベルギー、デンマークを加えた8カ国がコインブラに集まり、国際ルールのベースを作る国際会議を開催。
 - 2006年 7月 アメリカ、カナダ、デンマーク、イングランド、フランス、日本、韓国、ポルトガル、トルコの9カ国が参加して国際競技規則、規約、組織、役員を決定するサミットをアトランタで開催。その場で正式にFIPFAが組織され、呼称も「Powerchair Football」と統一される。また、6カ国によるワールドカッププレ大会が開催される（1位フランス 2位日本 3位イングランド 4位アメリカ 5位カナダ 6位デンマーク）
 - 2007年 10月 東京（日本）で、記念すべき第一回目の『FIPFA World Cup Japan October 2007』が開催される。
- 日本電動車椅子サッカー協会ホームページ <http://www.web-jpfa.jp/index.html>

盲腸ポート実体験レポート

東京頸損連絡会 今村 登

今年の6月下旬に盲腸ポート手術を受けた。盲腸ポートとはどういったものなのかは、本誌でも掲載されたことがあり、インターネットでもいろいろと詳しい情報が載っているので、盲腸ポート自体の説明は省略させていただいて、私は自らの体験を簡単ではあるがご報告させていただく。

2日前に一度、青梅市立総合病院の外来受診をし、正木医師から盲腸ポート手術を受ける対象としてはOKとの診断は受けていたが、保険外手術のため約60万円かかるという費用面と、術後自分の体に合った浣腸液の適量が分かってくるまで失敗（失禁）は十分有り得るということとがひっきり、手術を受ける決心をつけられずにいた。しかし、今年になって定期預金の満期となり、丁度60万円が貯まり資金面の調達はでき、さらに失禁をすこぶる嫌がる妻が、仕事で1年間海外に行くことになり、これで気兼ねなく術後の失禁も安心となった（笑）。ということで、今年において他に手術を受ける最適な年は無いと決心し、善は急げとばかりに手術を申し込んだ。

6月20日に入院し、翌日の昼食後に液体の下剤を2リットル飲み干し、その日は夜まで何度もベッド上で排便し腸を空っぽにした（これが結構辛かった）。さらに翌朝に高圧浣腸でダメ押しの排便をして手術に望んだ。手術は全身麻酔で行われ、約1時間ほどで終了したらしい。手術自体は順調に終了したが、夜になって気持ちが悪くなり嘔吐を繰り返した。どうやら全身麻酔により胃腸の動きが鈍くなり、胃液が腸へ流れていかないらしい。そのため胃液を排出するために、術後数日間は鼻から胃の中にチューブが挿入されたままだった。これが喉を刺激して痛くてたまらず、予想外のトラブルに見舞われた。しかし、盲腸ポートから浣腸液を注入しての排便は、それはそれは快便であった。初回は術後7日目に行った（トラ

ブルが無ければもっと早くにできたらしい）。私は体が大きいので、適量は100ml 前後かもしれないと言われていたが、初回ということもありまずは60ml を注入した。すると15分ほどして固形の便が出て、もう10分ほどして更に液状の便が一気に押し出された。結構感覚は分かる私は、お腹が落ち着いてくるのに時間を要したが、全部で1時間ほどで終了した。その後の失禁も無かった。2回目も60ml で行い、失敗は無かったがもう少し量を増やしたほうが良さそうということで3回目のときは90ml で行った。すると5分ほどで出たが、その後1～2時間置きくらいのペースで、少量の失禁（ほとんど腸粘液）が続いた。入院中に3度の排便を試して退院し、4回目の排便から自宅で行った。その頃には食事もしっかり普段どおりの内容に戻っていたが、排便は順調で、適量を試すべく毎回ちょっとずつ量を変えて行っていた。その結果、私は2度に分けて注入するほうが良いことがわかり、最初に70ml 前後を入れ、1度排便したら続いて30ml 前後を追加注入するスタイルに落ち着いた。これで概ね1時間程度で終了し、後の失禁もなく快適な排便ライフ？を満喫できるようになった。

排便に1時間かかって快適なのかと思われる人もおられるかもしれないが、盲腸ポート手術を受ける前は、3日置きの排便で、前日に下剤（プルセニド）を2錠飲み、当日はレシカルボン座薬を合計4～6個、その後120ml の浣腸を2～3本、最後に摘便（指で肛門内壁を刺激する）を数回するやり方で約2時間半～3時間。終了後は下痢止めを服用し、失禁を心配していたことを思えば、夢のような激変を遂げたと言っても過言ではない。書き記せなかったデメリットもあることはあるが、私に後悔は無い。お陰で今年は海外に3度も行き、全て快便であった。

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒162-0051 東京都新宿区西早稲田 2-2-8 全国心身障害児福祉財団ビル 5F

TEL&FAX 03-3208-1655 e-mail:BXN06214@nifty.com

<http://www.saka-ue.cside.com/j/naq/>

[郵便振替] 口座番号:00110-0-62671 口座名義:菊地方 頸損連絡会

※ 各支部住所は本部にお問い合わせ下さい。

北海道頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 011-387-7190 e-mail:HP 送信用フォームをご利用ください

<http://www2.snowman.ne.jp/~zigzag/keison/hokkaido.html>

栃木頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 028-623-0825 e-mail:keison@plum.plala.or.jp

<http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 03-3766-6084 e-mail:keison5@khe.biglobe.ne.jp

<http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html>

神奈川頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 042-777-5736 e-mail:h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

<http://www.k-sonet.jp/>

静岡頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 054-273-9099 e-mail:GZL06477@nifty.com

愛知頸髄損傷者連絡会

TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail:kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail:kson_g@yahoo.co.jp

<http://www.normanet.ne.jp/~yume/>

京都頸髄損傷者連絡会

TEL 075-645-1021 FAX 075-645-1262 e-mail:ktakeshi@mediawars.ne.jp

<http://keison.moo.jp/>

大阪頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail:okeison@yahoo.co.jp

<http://rsakurai.hp.infoseek.co.jp/oaq/>

兵庫頸髄損傷者連絡会

TEL&FAX 078-934-6450 e-mail:hkeison@yahoo.co.jp

<http://hkeison.hp.infoseek.co.jp/>

愛媛頸髄損傷者連絡会

TEL 089-960-7730 FAX 089-960-7731 e-mail:skazu9@peach.ocn.ne.jp

<http://www4.ocn.ne.jp/~keison/index/index.htm>

編集後記

愛媛頸損会を中心とする第 2 回目の「四国頸損者の集い」開催、「広島頸損ネットワークきりんの会」への大阪・兵庫頸損会有志の訪問、栃木・東京両頸損会の交流などなど、新たなきずなを求めて活動が広がりつつあります。

頸損者と頸損連絡会を、もっと多くの人に知ってもらうために”リーフレット“も作成しました。

今まで以上に多くの力を結集して、重度障害者が希望の持てる社会の実現を目指していきたいものです。皆様の会活動への参加とご協力をお待ちしています。(T.K)

編集部員（協力者）募集

全国機関誌『頸損』編集部では、編集に協力していただける方を随時募集しています。ぜひご連絡ください。

編集部連絡先

菊地敏明

住所 〒189-0023 東京都東村山市美住町 1-4-15-1-105

TEL：042-396-7816 E-MAIL：tosiaki@tokyo.email.ne.jp

☆大阪ええとこ一度はおいで！？

全国総会大阪大会

のご案内

来年の全国頸髄損傷者連絡会全国総会は大阪で行われます！

ここ数年の傾向として重度の頸損者が増えると同時に福祉制度を利用して自立生活を始める頸損者が増えてきました。そこで、大阪では「重度障害者の自立と支援」をテーマに人工呼吸器を使用する高位頸損者がおかれている現状と課題等について皆で考え、また、都心部と違って自立の困難な環境にある地方での自立生活実現に向けて考えることで、私たち頸損者にとってよりよい生活、よりよい未来を切り拓いていきたいと思っています。楽しくて印象に残るような大会にしようと現在準備中なので、ぜひこの機会に新大阪行きのチケットを買って、ベタでコテコテのディープ大阪を堪能してください。

みなさんの参加をお待ちしています。

- 日時：2008年5月10日（土）～11日（日）
- 場所：ホテルアウィーナ大阪
大阪市天王寺区石ヶ辻町19番12号
<http://www.awina-osaka.com/>
近鉄上本町駅から徒歩5分、地下鉄谷町9丁目駅から徒歩10分
新大阪駅から地下鉄乗り換え1回で約40分
- 大会テーマ：「重度障害者の自立と支援について」
- 内容案：人工呼吸器使用者の現状と未来に向けて（仮）
地方で暮らす頸損者の自立生活実現に向けて（仮）



全国頸損連絡会・日本リハ工学協会 合同シンポジウム

テーマ 福祉機器の格差を考える ― 地域と生活 ―

共催 全国頸髄損傷者連絡会，日本リハビリテーション工学協会

福祉機器にまつわる地域の格差、サービスの格差、情報の格差などを、当事者の視点から考える。福祉機器は、機器の供給制度などが地方行政に頼るところが大きいため、地域の格差やサービスの質、それらの情報を入手する方法や情報量などが、地域格差を生み出す要因となる場合もある。一方で、積雪寒冷地域や交通の不便な地域など、地域によって必要な機器や機能は異なる場合も多い。どのような地域にいても当事者が満足できる生活をするために、必要な機器を手に入れ、活用するにはどうすればよいのか。そしてこのような機器を実現するためのリハビリテーション工学の役割はどうあるべきか。各地域の当事者の発言を織り交ぜて、現状を認識し、福祉機器の将来のあるべき姿を議論していく。

開催日：2008年 3月1日（土） 13時～17時

会場：全国障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）

東京都新宿区戸山1-22-1 TEL 03-3204-3611

☐ 講演 福祉機器の格差を考える

地方の状況を当事者が報告

☐ 東京の生活 ― 全国状況 ―

福祉機器の格差、サービスの格差、リハビリテーションの格差を提起

☐ パネルディスカッション 福祉機器の格差

【合同シンポジウム・ホームページ】

<http://www.nom-anet.ne.jp/~tkyksen/goudoushinpo.html>

参加費など詳細が決まりしだいホームページ等で皆さんにお知らせします。

（あくまでも予定の段階です。やむを得ず変更となる場合があります）

合同シンポジウム 実行委員長 東京頸髄損傷者連絡会 越澤 孝 fzw@nifty.com

SSKA 頸損 No.93

2007年12月7日発行

SSKA 頸 損

編 集 全国頸髄損傷者連絡会

編集責任者 三戸 呂 克 美

全国頸髄損傷者 東京都新宿区西早稲田 2-2-8

連絡会本部 全国心身障害児福祉財団ビル 3階

TEL/FAX (03) 3208-1655

二〇〇七年十二月七日発行
SSKA 頸損増刊通巻第六〇八一号（毎月六回一・六の日発行）
昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可

編集人 発行人

障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧六―二六―二二
全国頸髄損傷者連絡会
東京都新宿区西早稲田二―二―八―五F

頒価二五〇円